

ISHIKAWA DESIGN AWARD

令和 4 年度 石川デザイン賞

2022

令和 4 年度

石川デザイン賞 表彰実施要領

■ 目 的

石川県内のデザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を評価、表彰することにより、県民へデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図ることを目的とする。

■ 表彰対象

これまで石川県のデザインの向上、普及に著しく貢献している個人及び企業、団体を対象とする。

■ 表彰対象者の選考

- ①デザイン関係団体等の代表で構成する「石川デザイン賞選考委員会」において選考し、決定する。
- ②選考にあたっては、
 - ・デザイン界において顕著な活動を実践したもの
 - ・社会、教育に対してデザインのより一層の振興を図ったもの
 - ・デザインに対して深い理解を示し、商品開発や販売促進、さらには地域・社会・環境等の課題解決にデザインを効果的に活用したものなどの観点から審査する。

■ 表彰

石川デザイン賞 3件以内 ※賞状と副賞を授与する。

表彰は、石川県知事と公益財団法人石川県デザインセンター理事長の連名による。

■ 石川デザイン賞選考委員名簿

委 員 長	川本敦久	金沢卯辰山工芸工房館長
副委員長	村中 稔	金沢美術工芸大学教授
委 員	飴谷義博	(一社)石川県繊維協会専務理事
〃	飯尾 豊	石川県インテリアデザイン協会理事長
〃	佐藤晋太郎	石川県商工労働部産業政策課長
〃	東田修一	石川県ビジュアルデザイン協会理事長
〃	長岡満寿夫	(一社)石川県建築士事務所協会理事
〃	西田哲次	金沢商工会議所常務理事
〃	布島宏胤	金沢市経済局クラフト政策推進課長
〃	松本いづみ	石川県クラフトデザイン協会理事長
〃	水野一郎	建築家・金沢工業大学教育支援機構顧問
〃	山本洋志	石川県プロダクトデザイン協会会長
〃	餘久保優子	石川県工業試験場デザイン開発室長

公益財団法人 石川県デザインセンター

石川県金沢市鞍月2丁目20番地（〒920-8203）
石川県地場産業振興センター新館4階
TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242
ホームページ <http://www.design-ishikawa.jp>

デザインの力。
人を動かし、
時代を創る。

ISHIKAWA
DESIGN AWARD

◎ 受賞者の紹介



浦 淳

(株) 浦建築研究所 代表取締役社長
認定NPO法人趣都金澤 理事長
(株)ノエチカ 代表取締役主宰



橋本 修二

ブルーコデザインスタジオ 代表



株式会社 能作

代表取締役社長 岡 能之

受賞理由

国内外で数々の設計実績を誇るほか、文化を機軸とした街づくりを目指すNPO趣都金澤と(株)ノエチカを設立し、北陸・石川・金沢の魅力を掘り下げる各種イベントにも力を注いでいる。建築と街づくり、工芸を横断する事業展開で、本県のデザイン力の高さを発信している。

浦淳氏は大学を卒業後、建設会社勤務を経て、祖父が創立した建築設計事務所に入社しました。能登演劇堂や金沢港クルーズターミナル、陽風園改築などの設計に携ったほか、中国・大連に事務所を開設して福祉施設や留学生会館を、バングラディッシュ・ダッカでは国家プロジェクトの一環として高架駅の設計を手がけてきました。

こうした実績に加え、自身の茶室を設計した経験を生かして、ドイツ・ベルリン国立アジア美術館の新たな目玉となる茶室の国際設計コンペにも、参加要請を受けてエントリーしました。県内の工芸作家3人とコンセプトを練り、先の大戦で破壊されたままのドイツ版“原爆ドーム”とも言えるカイザー・ウィルヘルム記念教会の尖塔をモチーフにした「忘機庵ーゆらぎの茶室」を提案したところ、随所に工芸をちりばめた造りと茶室としての実用性が高く評価され、国際コンペを勝ち抜きました。

浦氏は、「建築設計は地域づくりと切り離せない」との思いから、青年会議所メンバーとともにNPO趣都金澤を設立し、その後法人化を経て、現在は認定NPO法人趣都金澤理事長として金沢の文化資源を地域に還元する企画、運営にも携わっています。那谷寺(小松市)や勝興寺(高岡市)、大瀧神社・岡太神社(越前市)など北陸を代表する古刹や名社を展示空間に、工芸作家がインスタレーションする「GO FOR KOGEI」のほか、さまざまな文化・まちづくり事業、他都市の文化政策や金沢らしさを掘り下げる勉強会なども開催しています。

さらに、公益性重視の趣都金沢に対し、「文化の経済化」を目指す街づくり企業の(株)ノエチカも設立し、インバウンド需要や海外展開もにらんだ、九谷焼の祭典「KUTANism」やハイアットセントリック金沢での工芸アートフェアなどの各種イベントにも取り組んでいます。



左：石川の海の新たな玄関口となった金沢港クルーズターミナル
右：ベルリンで現地スタッフと40日かけて組み立てた「忘機庵ーゆらぎの茶室」

PROFILE

1966年石川県金沢市生まれ、大阪工業大学工学部建築学科卒業。(株)大林組を経て、93年、(株)浦建築研究所に入社し、2006年より代表取締役社長。認定NPO法人趣都金澤理事長、(株)ノエチカ代表取締役主宰、(一社)ユニバーサルデザインいしかわ副理事長。

受賞理由

工業デザイナーとして機能美を追求する姿勢に定評があり、グッドデザイン賞を何度も受賞している。デザインの対象は電子機器から伝統工芸まで多彩で、商品企画からセールスプロモーションまで担うなど、地域におけるデザイン活動のあるべき姿の一つを具現化している。

橋本修二氏は大学を卒業後、カシオ計算機(株)を経て、Uターンでプロダクトデザイン事務所の(有)オー・ディ・ワークス(小松市)に入社し、14年従事した後、同事務所の閉鎖を契機に自身のスタジオを金沢に構えました。プロダクトデザイナーとしての歩みをスタートさせたカシオ計算機(株)では、デジタル腕時計のほか、同社の看板ブランドであるG-SHOCKのデザイン開発にも従事しました。

橋本氏がプロダクトデザイナーとして飛躍し、キャリアの幅を広げたのが、(有)オー・ディ・ワークス時代です。(株)PFUの社内プロダクトデザイナーと協力して初めて関わった自立式の情報端末であるキオスク端末「MEDIA STAFF SSモデル」がグッドデザイン賞に選定され、これを機に同社から継続的に発注を受けるようになりました。そして、独立後も(株)PFUのドキュメントスキャナのデザイン開発に関わり、グッドデザイン賞の受賞製品は独立前も含めて4点を数えます。

さらに、(株)北計工業の携帯型色認識装置カラートークでは、目の見えない方にも持ちやすい適切な丸みや凹凸など人間工学に基づくデザインと操作性が高く評価され、グッドデザイン賞特別賞のインタラクティブデザイン賞(経済産業大臣賞)を受賞しました。また、(有)オー・ディ・ワークス在职中には、門扉やスライドドアなどのエクステリア、企業ロゴなども手がけています。

独立後、(株)タカノクリエイトの依頼により大手飲食チェーンの業務用食器を多く手がけ、現代仏具や九谷焼スープボウルなどの伝統工芸と工業デザインの融合にも挑戦しています。加えて、近年のコロナ禍では、横開きする会食用マスクやマスク装着時の眼鏡曇りを防止する器具を自主開発し、それぞれ特許を取得しています。



コンセプトスケッチからモックアップまで手がけたカラートーク



2019年グッドデザイン賞のドキュメントスキャナfi-800R

PROFILE

1967年石川県金沢市生まれ、金沢美術工芸大学工業デザイン専攻卒業。カシオ計算機(株)を経て、94年に(有)オー・ディ・ワークスに入社、2008年に独立してブルーコデザインスタジオを設立。2001年にグッドデザイン賞特別賞、1998年、2004年、06年、19年にグッドデザイン賞を受賞。

受賞理由

金沢漆器の老舗として精緻な加賀蒔絵の伝統を継承するだけでなく、感性とデザイン性に優れた漆器の製造・販売も行ってきた。小中学生や観光客への工芸文化の積極的な発信に加え、欧州の団体との事業連携や展示会への出展を通じて、海外販路の開拓にも力を注いでいる。

能作の創業は、初代・能登屋作太郎が仏具の飾り職人たちに漆を商い始めた1780年(安永9年)です。以来、8代にわたって漆を供給して職人との信頼を積み重ね、戦後は金沢漆器を中心に輪島塗や山中漆器などの製造・販売も手がけるようになりました。

金沢を代表する老舗の一つとして、石川の伝統産業を担う存在であり、金沢市内の小中学校への出張授業や観光客向けのイベントを通して、金沢漆器の魅力と工芸技術を発信しています。近年は、北陸新幹線金沢開業に合わせて店舗での蒔絵体験を始め、金沢漆器の工程に多くの人手と細やかな技術が欠かせないことを見本を使って説明するなど、来店者により身近に触れてもらうことで理解が深まるよう努めています。

一方で、伝統を守るだけでなく、石川県工業試験場と協力して、従来の漆では不可能だった青や白などを鮮やかに発色するパール漆をはじめ、食洗機での食器洗いも可能にする丈夫なナノ漆といった、新世代の漆素材の開発にも取り組んできました。その結果、これまでの漆器のイメージを覆すようなモダンデザインの新商品誕生にも寄与しています。

海外展開にも積極的で、2002年に世界最大の国際消費財見本市「フランクフルト・メッセ」へ出品したのを機に、モナコやウィーン、ミラノ、パリ、ダボスでの展示会に出展。ミラノでは日本領事館領事公邸、ウィーンでは同大使館大使公邸、パリでは提携企業のパリ支店で、自社単独の展示会も開催しています。こうした地道な活動により、金沢漆器の繊細でアンティークなデザイン性が現地富裕層を中心に高く評価されるようになっていきます。



ミラノで開催した展示会



加賀蒔絵の加飾が美しい金沢漆器

DATA

- | | | |
|-------|-------------|------------|
| ■ 代表者 | 岡 能之 | ■ 主な業務 |
| ■ 所在地 | 金沢市広坂1-1-60 | 漆、漆器の製造・販売 |
| ■ 創 業 | 1780年 | |
| ■ 従業員 | 17名 | |

◎ ご挨拶

デザインは、時代を切り開く新しい価値創造のプロセスとして、商品開発や広告のもとより、企業戦略や都市景観、イベント、地域活性化など多様な分野で、その力を発揮しています。

ますます創造性が必要とされる今日において、より一層社会に対して、デザインの浸透を図っていくことが重要であると考えます。

石川デザイン賞は、こうしたデザインの役割を広く県民各層にご理解いただくために、デザインの普及・発展やデザイン業界の活性化に著しく貢献した個人及び企業、団体を顕彰するものです。

選考に際しては、デザインに対する理解の深さ、リーダーシップ、社会への貢献度、商品開発や販売促進においてデザインを効果的に活用したもの、そしてデザイン業界において顕著な活動をしたものを対象にしています。

令和4年度は、右記の3者が受賞しました。ご一読いただき、デザインの有効活用の一助になれば幸いです。

公益財団法人 石川県デザインセンター

理事長

大場吉美